珈琲法要

作・山田百次

珈琲法要

登場人物

斉藤文吉（さいとうふみきち）
津軽藩、諸手足軽（もろてあしがる）。諸手足軽とは鉄砲隊のこと。津軽藩に仕える若き下級武士。

藤崎村の忠助（ふじさきむらのただすけ）
津軽藩、郷夫（さとふ）。郷夫とは民兵のこと。普段は百姓をやっているが、急きょ藩からの命により北方警備にかりだされ、蝦夷に渡った。

弁慶（べんけい）
アイヌの女性、津軽藩兵の世話をしている。文吉にアイヌの口琴、ムックリを教えてやる。

舞台、上手には奥の部屋に通じる入り口。奥の部屋には、病人が多数寝込んでいる。下手には、玄関や台所へ通じる入り口。
上手舞台前方には、オホーツク海沿岸がすぐそばに見える雨戸。

上手に布団が二組置いてある。下手の床には昨夜、文吉と忠助が宴をしたのかトックリとお猪口、箸やお皿が転がっている。

☆や★は同じ記号で同時発声。

序幕

文吉　ワの名前は津軽藩、諸手足軽（もろてあしがる）、斉藤文吉ど申します。文化四年。ワだぢ津軽藩兵は、海を渡り蝦夷に……あ、今で言う北海道です。蝦夷の松前藩に着き……函館辺りね。そこよりず～っと歩き、北の端っこ宗谷に行き、そこからまたず～っとず～っと歩いてやっと斜里に行きました。何故かというと、はるか北の国ヲロシヤが度々、侵略しに来たからでござる。いやヲロシヤの赤人（あかびと）ってすのは、ワはまだ見た事ねえけど「とにかく守れっ！」って命を受けたので、ワは生まれて初めて蝦夷に渡りました。ちなみに宗谷から向こうに見える島が樺太、そこからはもうヲロシヤとなります……しかし、本当に遠いどごまで来てしまったな……（咳払い）この度の、北方警備の一部始終。藩の記録に残る事あい許されず他言無用、永く子孫へ伝うのみどなっており申した

暗転。暗闇のなか、アイヌの口琴、ムックリの音が響く。

第一場

手伝いで出入りしているアイヌの女、弁慶がムックリを鳴らしている。文吉は布団にくるまり、寒さにふるえながら弁慶の演奏を感心するように眺めている。
ひと通り鳴らし終えた弁慶、ムックリを口から離し、文吉に向かって自慢げに笑う。

文吉　は～

弁慶、またムックリを鳴らし始める。

文吉　大したもんだな～

弁慶、鳴らしている。

文吉　ちょっと貸して
弁慶　ダメダメ！
文吉　え、なんで？
弁慶　これは女しか鳴らしちゃいけないんだの？
文吉　んだ
弁慶　……へ～
文吉

弁慶、再びムックリを鳴らしだす。熱心にその口琴を見つめる文吉。弁慶、鳴らすのをやめ、文吉にムックリを差し出し、

弁慶　やってもいいよ
文吉　え、いいの！？
弁慶　誰も見でねえし
文吉　どれどれ

文吉、見よう見まねでやってみるが全く音が出ない。

弁慶　（笑）全然でぎねえ
文吉　ええ？　これ、どうやって鳴らすの？
弁慶　鳴らすんでねの、呼んでくるの
文吉　呼ぶ？　何を？
弁慶　川とが
文吉　川？　……川を呼ぶの？

弁慶　んだ、ここに（自分の口を指し）川呼べば、魚が跳ねだり鳥が飛んで来たりするべ？　だから呼ぶの
文吉　……は～
弁慶　あど、熊の子っこも、呼べば口の中で鳴ぐよ
文吉　……ふ～ん

弁慶、手を差し出す。

文吉　は、なに？
弁慶　銭コ
文吉　は？
弁慶　じゃなかったらタバコでもいいけど
文吉　え！　なして？
弁慶　これ、聴がせだべ？
文吉　……手伝い賃もらってらべ？
弁慶　これは別だ
文吉　え～？
弁慶　あど今、オメエが使ったべ？
文吉　ん？　んだ
弁慶　銭コ
文吉　ええ？
弁慶　じゃなかったら酒でもいいけど
文吉　でも音、鳴らながったよ
弁慶　……オメは女しか使っちゃいけないものを使った、アイヌの決まり破った

弁慶、脅すように文吉に迫る。

文吉　え？　でも……貸してくれたし
弁慶　貸せって言ったのオメだ
文吉　む～……せ、せば後で
弁慶　ぜってえな
文吉　う、うむ！　武士に二言はない
弁慶　……それはどういう意味？
文吉　ええ、どういう意味？　……う～ん侍はウソをつかないという事だ
弁慶　サムライって何だ？
文吉　ワァだぢだ
弁慶　倭人の事か？
文吉　ん～まあ、そうだな
弁慶　……ブシに？
文吉　武士に、二言は、ない
弁慶　ブシニニゴンハナイ
文吉　うむ、んだ
弁慶　……それはウソだ
文吉　何？
弁慶　倭人は嘘つぎだ
文吉　え？
忠助　文吉どの！　文吉どの！

忠助、漁用の網を片手に玄関のほうから走ってくる。

忠助　おい！　起ぎろ！
文吉　起ぎでるよ
忠助　外が外！　見でみ外！　大変だ！
文吉　なに！　赤人だが！？
忠助　違う違う！
文吉　あ？
忠助　違うって
文吉　なに、違うのが

忠助　海に蓋してある
文吉　はあ？
忠助　海にフタ！
文吉　……フタ？

忠助、激しくうなずく。

文吉　何言ってんの？
忠助　いいがら見でみろって
文吉　海に蓋って
忠助　いいがら！

忠助、文吉を雨戸までひっぱっていき、雨戸を開ける。

文吉　……あれ！？
忠助　な？　フタかぶさってるべ？
文吉　……
忠助　一晩で海さフタがかぶさった～！
文吉　……あれ、氷だべ？
忠助　は？
文吉　あれ氷だ
忠助　氷
文吉　な？
忠助　あ、あ～氷ぃ
文吉　蝦夷の海は凍ってしまうのが
忠助　あれ？　……おい。なんが、あそご盛り上がってきてね？
文吉　ん？
忠助　ほら、あそごあそご

忠助、海のある部分を指さす、間。

文吉　☆おいおいおい
忠助　☆ええ！

間。

忠助　山できた
文吉　……
忠助　氷の山……おお、アッチにも
文吉　これ……この世の景色だが？
忠助　おお！　まだ
文吉　とんでもねえ所に来てしまったな
忠助　夜中によ
文吉　ん？
忠助　なんが海のほうで、ギュウギュウって鳴ったりキュッキュって鳴ったりよ～音してったのよ
文吉　んだのが
忠助　んだ～海も凍るんだな～
文吉　海もサビいサビい（寒い寒い）って泣いでらんだべ
忠助　んだ、サビサビってや
文吉　サビサビサビ～
忠助　サビサビサビ～
弁慶　あれがどうしたの？

弁慶、忠助が持ってきた網の中に入って動けない。その姿に二人驚くしまう。外の様子に慌てる二人に、

忠助　何やってんの？

弁慶　これ取れねえ

忠助、文吉、弁慶の網をとってやる。弁慶、海が見える引き戸のところまで行き。

弁慶　珍しいのが？
忠助　……珍しいもなんも見だ事ねえよ！
弁慶　いつもの事だべ
忠助　☆え？
文吉　☆んだのが？
弁慶　今年はちょっと早え
文吉　へ～
忠助　おい、オメのこと探してったぞ朝メシ作るの手伝えって
弁慶　……

弁慶、転がっているトックリやお猪口をお盆にのせ、下手から去る。文吉と忠助、ふたたび外を見ながら、

文吉　☆これ、毎年だの？
忠助　☆これ、アレみてえだな
文吉　ん？
忠助　ん？　あ、何？
文吉　どうぞどうぞ
忠助　いや、文吉どのどうぞ

間。

文吉　これ★、毎年だのがって
忠助　★これ、アレみてえだって
文吉　ん？
忠助　ん？　あ何て？

間。

文吉　☆だから、これ
忠助　☆これよ～賽の河原に石積んでるみてえだなって
文吉　……あれ河だべ？　これ海だど
忠助　じゃあ三途の海だな！
文吉　三途の海！？　だったら賽の海岸だな
忠助　おっろ～！　蝦夷のあの世は賽の海岸、三途の海だ～
文吉　おい、鬼は鬼？
忠助　ん？
文吉　鬼が、積んだ石を壊しに来るんでねえの？
忠助　分がってねえな～
文吉　何が？
忠助　ヲロシヤの赤人（あかびと）ってよ
文吉　うん
忠助　顔赤えがら赤人だべ？
文吉　……あ
忠助　赤鬼だべ
文吉　……
忠助　赤鬼が攻めでくるな～
文吉　ま、待で待で待で！　……これだば船進んで来れねえべ？
忠助　いや、きっとあの氷、ヲロシヤまで続いでらんでねの？

文吉、ワナワナと震えだす。忠助、再び流氷を見る。

文吉　……あの氷がヲロシヤまで続いでだら

忠助　あ
文吉　赤人ど……走って来る！
忠助　あれ？
文吉　ワ……ひっくり返ってしまう！
忠助　んだな……
文吉　ひえ～おっかねえ！
忠助　おい、誰が出てきた
文吉　ん？
忠助　ほらほら、海まで走ってるぞ！

文吉も外をのぞいてみる。

忠助　え！　ふんどし一丁になった！
文吉　あれは公儀御役、最上徳内（もがみとくない）殿だ
忠助　うあ！　手拭いで体こすってれ
文吉　あれ毎朝やってるよな
忠助　赤人よりおっかねんだけど！
文吉　あの人の命で今日から武芸の稽古なんだぃな
忠助　んだの？
文吉　んだ～
忠助　よぐやるな～
文吉　だって幕府の普請役だべ
忠助　偉い人のやる事は違うな
文吉　なして？
忠助　陣屋の中にいでも、こんなにサビいのに外で乾布摩擦やっちゅんだ。頭おがしいって
文吉　滅多な事言うもんでねって！　誰か聞いでたらどうすんのよ？
忠助　したってよ～

文吉、忠助、外を窓を開け冷えすぎたのか、布団をかぶる。

文吉　お上に、「蝦夷を開拓するべ」って言った一人らしいな
忠助　んだの？
文吉　んだ。あの人、土食うってよ
忠助　土？
文吉　夷人ど一緒に、魚ど土ば煮だ料理食ったって自慢してったらしいよ
忠助　土食うの！？
文吉　調味料だってよ、最上殿にお供でついで来た連中がしゃべってた
忠助　……すげえな、土って食えるんだな
文吉　いや、煮ればモチみてえにうめえらしいよ
忠助　本当に？
文吉　そういう話だ
忠助　んだな
文吉　神様って呼ばれでんだど
忠助　え？
文吉　んだんだ、レッケカムイって
忠助　レ……え、なんて？
文吉　レッケカムイ
忠助　なんの事よ？
文吉　ヒゲの神様だど
忠助　ヒゲ？
文吉　ワだぢ倭人はヒゲ剃るけど、ほら、最上殿は夷人みてえに伸ばしてっから
忠助　は～。あの方につぎあってだら、こっちの身がもたねえ
文吉　やめろって
忠助　稽古頑張れよ

忠助、寝転がる。

文吉　忠助どのは行がねの？
忠助　んだ
文吉　…ホントに？
忠助　うん
文吉　……ホントに？
忠助　うんって！
文吉　行ごうよ～
忠助　行がねって
文吉　ワぁ寂しいな～
忠助　いやいや、ワぁ調子悪いんだって
文吉　んだの？
忠助　なんが、朝起ぎれば顔パンパンになってんだよな
文吉　それは酒の飲みすぎだべ？
忠助　いや、まあそれもあるけどよ～
文吉　ほら
忠助　してもこの寒さだと酒でも飲んで体あっためねえば、なんも寝られねえ
文吉　んだな
忠助　みろって、この足
文吉　ん？
文吉　足がなしたの？

忠助、起き上がり、何重にも重ね着をした着物をめくり、ふくらはぎの部分をだす。

忠助　ほら
文吉　……なんともねえように見えるけど
忠助　いいがらいいがら

忠助、ふくらはぎの柔らかい部分を指で五秒ほど押し、離す。

忠助　見ろこれ
文吉　……あれ？
忠助　な？
文吉　え……戻らねえ？
忠助　んだのよ……押してからずっと引っ込んだまんまなのよ
文吉　……
忠助　これ大丈夫だの？
文吉　わがんね
忠助　……
文吉　忠助どのは今、歳なんぼだの？
忠助　二十六よ
文吉　ええ？
忠助　なに？
文吉　見えねえな
忠助　こう見えても二十六よ。
文吉　ああ
忠助　役柄上は二十六よ。実際は三十九歳
文吉　あ、あ～なるほど
忠助　あ？
文吉　じゃあ、あれだ
忠助　なに？
文吉　お肌の曲がりかど
忠助　んだの？
文吉　きっとそんだな
忠助　いや、もっとひでえのあっちにいだよ
文吉　え？
忠助　手も足もボゴっど腫れでしまって。赤んぼの手足ど同じでムチムチしてよ
文吉　んだな

忠助　赤んぼど違うのは、押しても戻らねえどご。あど真っ白〜ぐなってらどご、腫れが手足がらだんだん上にあがってきてんだって

文吉　うわ〜

忠助　文吉どのもやってみろって

文吉　いや、ワはいいよ

忠助　いいがらさ

文吉　ワはまだお肌スベスベだもの

忠助　いいがらやってみろって！

文吉、恐る恐る自分のふくらはぎを押して離してみる。すぐ元に戻る。

文吉　おお

忠助　戻ったな

文吉　戻った〜

忠助　バイ〜ンど戻った

文吉　まだ大丈夫みてえだ

忠助　文吉どの、いま年なんぼよ？

文吉　十七

忠助　ええ！？

文吉　なに？

忠助　それはちょっと無理あるな〜

文吉　こう見えても十七よ

忠助　へ〜じゃあ、お肌もピッチピチだべな

文吉　んだ、ピ〜チピチだ

忠助　そうか、ピチピチなのか？

文吉　んだ、ピ〜ッチピチ〜

忠助　……

文吉　ピ〜ッチピチのモ〜チモチ〜

忠助　だったら武芸の稽古に励めよ！　赤人だぢ攻めで来たら頼むわ！

忠助、再び布団を頭からかぶる。

文吉　……そんな事言うなよ

忠助　ワは戦えねえよ

文吉　いや……まあ、この天気だば赤人も攻めでこねえべ、冬だし

忠助、布団から顔を出し、

忠助　まあな（笑）

文吉　（笑）来るとしたら雪とけてからだって

忠助　んだ、雪とけてからだな

文吉　雪とけても来ねばいいやな〜

忠助　間違いねえ！　それ一番だ

弁慶、下手から出てきて、

弁慶　朝メシできた

文吉　んだな？

忠助　やっと？　遅えんだよ

弁慶　倭人は同じものしか食べねえのが？

文吉　は？

弁慶　毎日、干した魚ど味噌だけで

文吉　それしか持ってきてねえがら

弁慶　海がら魚獲ればいい

忠助　誰も魚を獲れねえもの

弁慶　（床に転がっている網を指し）これはなんだの？

忠助　ああ、なんが物置で見つけだがら、やってみようど思って。したら海

が凍みでまった

弁慶、網を持って去っていく。忠助、弁慶にむかって

忠助　おいおいおい！
文吉　……
忠助　…持って行った

文吉、自分の布団をたたみながら

文吉　生魚、四ヶ月ぐれえ食ってねえな
忠助　おい、松前で食ったナマゴだのウニだのうめがったな
文吉　リンゴ食いてえなリンゴ
忠助　リンゴ？
文吉　んだ、リンゴ
忠助　リンゴなんが作ってねえよ
文吉　え？
忠助　この時代はまだ名産じゃねえよ
文吉　だって津軽はリンゴが
忠助　津軽でリンゴ作るのは、もうちょっと後の時代だから
文吉　え！？　んだの！？
忠助　しくじったな～
文吉　あれ、おがしいな～
忠助　おい
文吉　え？

忠助、舞台前方を指し。

忠助　オメを呼んでるぞ
文吉　え？　誰が？
忠助　バカ！お上がだよ！
文吉　え……う、うわー！
忠助　怒られるぞ～
文吉　まだ作ってながったって知らながったんですリンゴ～！

忠助はそのまま台所に去る。文吉は台詞をいいながら、舞台前方まで行き、土下座をする。

文吉　堪忍してください堪忍してください……え？　あ、そっち？　……いやあの、そうじゃないんです、目付けの桜庭殿に代わって、記録の続きをワが付けだんです。いや、元々は宗谷に出兵してだんですが、いぎなり「斜里の警備に行け」っていうお達しがあって……確か七月十六日だったど思うんですけど。や～バタバタしながら支度して津軽がら出発。あまりにも急なため、一回に全員だと無理だという事になり三回に分けたんです。八月十一日までに移動完了、一〇〇名が斜里警備にあたりました。それで十一月二十五日、大鰐村の富蔵（おおわにむらのとみぞう）。二十六日、飯詰村の善右衛門（いいづめむらのよしえもん）……

奥の部屋より煙がモクモクとただよってくる。文吉、しだいに咳き込む。

文吉　二十九日、藤代村（ふじしろむら）の権之丈（ごんのじょう）。十二月一日、大組足軽（おおくみあしがる）、福士長十郎（ふくしちょうじゅうろう）。五日、同じく小笠原小太郎（おがさわらこたろう）うわ！　この煙はなんだ！？

二場

弁慶、奥の部屋から走ってくる。文吉、弁慶に、

弁慶　アペ！（アイヌ語で火の意味）　アペ！

文吉　この煙なんだべ？

弁慶　火…倭人…燃えてる！

文吉　は？　火事だが！？

文吉と弁慶、奥の部屋に入っていき、以下、奥の部屋よりの声。

文吉　おい！　やめろ！

忠助　なにがよ、火にあたってるだけだろ！

文吉　あたり過ぎだって

忠助　だって、今朝も寒くて寒くて、どうももならねえ！

文吉　ヤゲドしてるだろ！　やめろって！

文吉、忠助を舞台までひきずりだす。文吉、火に近づけ過ぎた忠助の腹を見て。

文吉　水ぶくれ出来てるだろ！

忠助　う～したってや～この陣屋、生の木で建てたからドンドン隙間出来でドンドン雪入ってくるんだけど！

文吉　だからって、こんなになるまで火に当るなって！

忠助　寒いんだもの！　みんな倒れで薪燃やす人もいねえじゃ

文吉　この煙！

文吉、自分の羽織で煙を払っている。

忠助　はあ、ほとんどの人が病にかがって寝込んでしまったじゃ

文吉　これだと、めぐらになってしまう！

忠助　これヲロシヤ攻めで来ねえのに、なしてワだぢは、こんな所で冬越さねばねえのよ！

文吉　お上の命だものしょうがねえべ

忠助　お上の命って、ワだぢはヲロシヤど戦いに来たんでねえのが？

文吉　攻めで来ねえのは平和だって事だべ？　そのほうがいいべ

忠助　……へ、平和なのにバダバダど人死んでんのは、どういう事だ！

間。

忠助　……大鰐の富蔵（おおわにのとみぞう）、具合悪いって言いだしてから、たった一ヶ月で死んだべ。それから死ぬ人、止らねえし。

文吉　……

忠助　宗谷に戻してくれって言った時に、言うとおりにしてやれば良かったのに

文吉　……戻したって同じだって

忠助　あ？

文吉　宗谷でも亡くなってるのいるってよ

忠助　……んだのが？

文吉　んだ

忠助　同じ病で？

文吉　んだ

忠助　え、何しに来たの、ワだぢ津軽がら？　ただ死ににきたのが三〇〇人！！

文吉　んなわけねえだろ！

忠助　……だいたい、なんでこうなってらのが分んねえし。メシだって腹いっぱい食ってるし、寒いつったって風邪はひいでねえよ

文吉　酒も飲んでるしな

忠助　……文吉

文吉　あ？

忠助　これ流行り病か？　この辺りで罹る流行り病か？

文吉　わがんねじゃ！

弁慶、台所のほうからトド松の枝と麻縄と笹の葉を持ってくる。

弁慶　（忠助に）大丈夫？
忠助　なにが？
弁慶　ヤケドしたんじゃない？
忠助　ああ、これぐれえした方が腹あったまって良いよ
弁慶　な～んだ
忠助　は？
弁慶　（文吉に）これでいいの？
文吉　おお、すまんな
弁慶　後でタバコ……
文吉　わかったわかった

弁慶、来たほうへ去る。

忠助　……なんだ、それ？
文吉　ん？　……うん、もう少しで正月だし
忠助　うん
文吉　なんも用意できねえがら、松飾りの代わりでも作ろうと思って
忠助　え……それで？
文吉　こんなのしかねえんだもの
忠助　……はあ
文吉　気分の問題だべ気分の
忠助　……しかしな～この病に罹って死んだヤツらの姿かたちときたら
文吉　……
忠助　一番酷えの、あれドザエモンど一緒だろ

文吉、忠助の独り言を無視して、とど松の木を何本か結束している。

忠助　くそ～土に埋めようとしても、この雪だし。掘ってて、やっと土が出でき
たって思っても今度は土が凍ってて穴一つ掘るにも大変だ

文吉、忠助の独り言を無視して、とど松の木を何本か結束している。

忠助　……あ～ワの足もドンドン腫れできたじゃ、見る？

文吉、忠助の独り言を無視して、とど松の木を何本か結束している。

忠助　んだんだ、見ねえほういい。
文吉　こんな感じがな？
忠助　あ～ワもそれやってみてえな、やってみてえな～！
文吉　ん？　オメもやる？
忠助　うん、やるやる
文吉　あ、そう
忠助　どうせ赤人が攻めでくるまで、何もやる事ねえもの
文吉　おお頼むじゃ。これば、しめ縄みてえにするはんで

忠助、立ち上がり、文吉から麻縄の片方を受け取る。

忠助　おお
文吉　それを、そっちにぶら下げてくれ
忠助　おお、あれ？　ここにちょうど良くカラビナがあるな
文吉　カラビナって言うなって！　この時代にはまだ無いんだから
忠助　あ、そっかそっか

忠助と文吉、麻縄をカラビナにくっつける。その形は神社のしめ縄

のよう。

文吉　それで、この笹をほら、あの白い紙みたいにつけてくれ。あの、あるだろ？
　カクカクした紙
忠助　あ？　なんだって？
文吉　ほら、神社にある、しめ縄についてる白い、あの、カクカクした紙
忠助　あ……ああ！
文吉　そうそう
忠助　あれだろ？　あの神社にある、しめ縄につける白いあの…
文吉　そうそう
忠助　ジョキジョキした紙だろ？
文吉　いや違う違う
忠助　……え？
文吉　だから神社にある、しめ縄についてる白いカク…
忠助　ああ、分かった！
文吉　あ、分かった？
忠助　あれだろ？　神社にある、
文吉　そう神社にある
忠助　しめ縄についてる
文吉　そうそうしめ縄についてる！　白いカク…
忠助　白いジョキジョキした紙だろ？
文吉　違うって！
忠助　え？
文吉　だから、神社にある！
忠助　うん、神社にある！
文吉　しめ縄につける！
忠助　うん、しめ縄につける！
文吉　白いカク…
忠助　ジョキジョキした紙だろ？
文吉　違う違う、だからカク…
忠助　ジョキジョキした紙だろ！？　なあ、こんな感じにジョキジョキした紙だろ？

　忠助、麻縄に笹の葉を二枚ほど刺してから、

忠助　こんな感じだろ！？　なあジョキジョキしてるだろ！？
文吉　……
忠助　ジョキジョキしてるわ～
文吉　ま、まあ、その調子で頼むわ
忠助　おう！　しょうがねえな～

　二人とも自分なりの正月の飾り付けの作業をする。最初は楽しそうに意気揚々とやっていたが、次第に気が落ち込んできたのか、

忠助　多分よ
文吉　あ？
忠助　ワだぢの事、何も考えでねえよな
文吉　……
忠助　お上は
文吉　お上に文句つけるなって
忠助　だってよ～とばっちり食うのワだぢだべ
文吉　お上のおかげで、生ぎでらもんだべ
忠助　オメはそんだけどな
文吉　あ？
忠助　文吉どのはお城附ぎだけどよ。ワァみてえな郷夫（さとふ）は、ふだん畑に出で、自分で食うのは自分で作ってんだよ
文吉　まあ、そうだな

忠助　年貢納めでよ、むしろお上を養ってるだろ？
文吉　……
忠助　お上を養ってやってんのに、こんな、あの世みてえな所に連れでこられで死ぬんならよ、何のために今まで一生懸命生ぎできたんだか分んねえよな
文吉　……それはそんだけど
忠助　だいたい、ここにいる百人の内、半分は兵士じゃねえだろ？
文吉　そうだ
忠助　……ここで死んだら大変だな

間。作業を続けていた忠助はふと手を止め、

忠助　帰りてえなぁ……ワ津軽さ帰りてえ
文吉　……ワもだ
忠助　綺麗な、お岩木山ぁみてえな～津軽平野に立派にデ～ンとあぐらかいでるお岩木山な～。晴れた日には、山頂にポンポンポンって雪で化粧して綺麗だろうな～
文吉　んだな～綺麗だな～
忠助　船がら蝦夷富士っていうの見えたけど、あんなの全然綺麗じゃねえ、津軽富士が一番だ
文吉　そうだな～お城がら見えるお岩木山は最高だ
忠助　……は？
文吉　ん？
忠助　バカな話しするんじゃないよ、ワが住んでる藤崎村がら見るのが一番だ
文吉　まてまてまて、お城からに決まってるだろ、だからあの場所に城を建てたんだぞ
忠助　は？　あんなゴチャゴチャした所から見て何が楽しいの？
文吉　なにぃ？
忠助　藤崎村がら見れば、ず～っと広い田んぼの真ん中に、デンっ！　と～お岩木山あったら何も言う事ねえぞ～。田んぼに水張る五月は水にも山映って逆さに見えて最高だ～！
文吉　なんもなんも～！お城で桜咲けばこれまだ格別だ！　そこで酒をチュッチュど飲んでみろ！　なんも言う事ねえぞ
忠助　それだったら藤崎だって同じだって
文吉　お城がらが一番だ！
忠助　藤崎だって！
文吉　お城だって！
忠助　藤崎だ！
文吉　お城だ！

二人、しばし睨みあった後、それぞれがやっていた作業に戻る。

忠助　こんなところで死にたくねえな
文吉　……死なねえって
忠助　みんな死んでんだろ

文吉、忠助が飾り付けている様子をみて、

文吉　……え？
忠助　は？
文吉　いや、そこに飾るのはちょっとな～
忠助　は？　ちょっと何？
文吉　あんまりだな～
忠助　ええ？　そう？
文吉　そうだろ
忠助　いや、こうきてこうきてこうきたら、こう飾るのが粋ってもんだろ

文吉、無言で忠助が飾った問題の部分の笹を取ってしまう。

忠助　おい！
文吉　はあ？　野暮だ野暮だ、それは野暮だろ
忠助　なんでだよ！　これのどこが野暮だって
文吉　オメは粋ってもんが分がってねえな
忠助　じゃあオメは分がるのが？
文吉　当たり前だべ？
忠助　じゃあオメなら、どこにつけるんだよ？
文吉　ここに決まってるだろ

文吉、自分なりのアレンジを加える。

忠助　えっ！？　そこにつけるの！？
文吉　いや、やっぱりここかな？
忠助　ええ？　それが粋ってヤツなの！？
文吉　ああ、ごめんごめん、やっぱり、ここかな？
忠助　それが粋！？
文吉　当たり前だろ！　これが粋だろうが見て分がるだろ！　バガ野郎！！

文吉の突然の激昂に、忠助ちょっとビビる。文吉、忠助ににじり寄りながら、

文吉　おい、いい加減にしろよ

忠助、笹を文吉に投げつける。

忠助　ふん！　アホくさ、やめたやめた！
文吉　あ！　てめえ！　せっかく弁慶どのが持ってきたのに

文吉、慌てて拾う。

忠助　やってられるか！　やってられるか！

忠助、雨戸の方に行きながら文吉に悪態をつく。

文吉　おい、まだ途中だど戻ってこいオラ！　戻ってこいオラ！
忠助　やってられるかってんだよ
文吉　おい！
忠助　しかしな～いづになったらこの吹雪やむのよ

忠助、雨戸を開け、外の様子を見る。

文吉　あ！

文吉、何かひらめいたのか飾り付けの所までいき、笹の葉を飾り付ける。

文吉　ここだな～きっとここが粋ってもんだ
忠助　……う～わまた裸になった
文吉　あ？
忠助　おい！　手拭いで体こすってるぞ！
文吉　最上殿？
忠助　赤人よりおっかえねんだけど
文吉　元気だな～
忠助　なんなんだよ、ほんとに
文吉　あの人。ここに来る前、宗谷で半蔵殿どケンカしたみたいだぞ
忠助　半蔵殿ってウチの藩の偉い人？
文吉　そう
忠助　山崎半蔵殿？

文吉　そうそう
忠助　なしてよ？
文吉　猛吹雪の日によ、あの人が陣屋の雨戸全開にして、上半身裸になって「お前らも裸になって座れ！」って言ったんだって
忠助　ええ！？
文吉　それで半蔵どのが、「何でそんな事をするんだ？　それはちょっとおかしいんじゃないか？」って注意したんだって
忠助　うん
文吉　そしたら最上殿曰く、「寒気を受けしためなり」って
忠助　はあ？
文吉　「寒気を防ぎしは、親より生まれて親を敵とするがごとし。天地は大父母なり、魚は水を嫌うべからず。人は気候を嫌うべからず。人は人を殺し、獣は獣を食うとも、其の産む所にいたりて親しむは天倫なり。イヌは猫を産まず、気候を親しみ共にするは幼子の、母を慕うが如くなるべし。」
忠助　……
文吉　だとよ
忠助　なに言ってらのがさっぱり分かんねえ
文吉　人はこの天地から生まれたから、暑さも寒さも、そのまま受け入れろってよ
忠助　いやいや、こんな所でそのまま受け入れたら死ぬって本当に
文吉　そうだよな
忠助　さすがヒゲの神様だな～なんてすんだっけ？
文吉　レッケカムイ
忠助　レ、レッケ……
弁慶　レッケカムイ、シリ、アン？（レッケカムイがどうしたの？）

弁慶、薬と水をのせた盆を持ってくる。

忠助　は？　……なんだ？
弁慶　オ、ククル、スイエ、ヤン（ほら、飲みなさい）
忠助　……何しゃべってるか分んねえよ
文吉　薬だろ？
忠助　ワだぢの言葉しゃべれ
弁慶　うるせえシャモ！（倭人を侮蔑する言葉）
忠助　は！？

弁慶、そのまま去ろうとする。

忠助　おい、その薬をおいていけ

弁慶、薬をポイと投げ捨てる。

忠助　こら！　水もおいていけ！

弁慶、乱暴にお盆を置いたら水がこぼれる。

忠助　こら！
文吉　あ～あ
忠助　あのやろ～！

文吉、お盆にこぼれた水を湯飲みに戻してやる。

忠助　おいおいおい！
文吉　ほら
忠助　返った、覆水、盆から返ったぞ！
文吉　ほら飲め
忠助　え、飲むの！？
文吉　山から取ってきた貴重な水なんだから飲めって

忠助　……だいたい、アレなんで弁慶って呼ばれてるの？
文吉　わがんね
忠助　オナゴだべ？　あれ
文吉　んだ
忠助　アレで弁慶ってな～どっちがってしたら牛若丸だべ？
文吉　強ぐみせてえんでねの？
忠助　でも、馬見て泣いてたよな
文吉　ああ、んだな
忠助　なして？
文吉　馬みるの初めてだったみてえだよ
忠助　は、それで泣いだの？
文吉　死んだ自分の子どもに見せてやりたかったって
忠助　え……んだの？
文吉　しかも、その馬の眼がな、
忠助　うん
文吉　子どもの眼にそっくりで、その子どもにしか見えねかったんだって忠助
　　んだの？
文吉　んだ
忠助　……あれ、文吉どのは子どもいるの？
文吉　ん？　いるよ
忠助　……ふ～ん。え？　オドゴだの？　オナゴだの？
文吉　分がんね
忠助　は？　分がんねの？　なして？
文吉　子ども生まれる前にこっち来た
忠助　……じゃあ、まだ子どもの顔みてねえの？
文吉　んだ
忠助　……
文吉　忠助どのは？
忠助　え？　ワが？　ワは独身貴族よ独身貴族

文吉　そうなの？
忠助　そう
文吉　じゃあ一人で暮らしてるの？
忠助　バカ、独身貴族といえども、レディーと二人暮らしよ
文吉　あら、そうなの？
忠助　そうよ
文吉　誰？
忠助　おっ母よ、おっ母！　おっ母っていうレディーと二人暮らしよ
文吉　んだの？
忠助　おっ母イズナイスレディーよ！！
文吉　はいはい
忠助　……おい、文吉、足出せ
文吉　は？　なんで？
忠助　いいから足出せって
文吉　なに？

　　文吉、足を出す

忠助　これ面白えんだよ

　　忠助、文吉のヒザをトンと叩くと、文吉の足がビョン！　と反応する

文吉　うお！？　なんだ？
忠助　な！　面白えべ？

　　忠助、何度かトントンと叩く。

文吉　おお！　……おお！

忠助、もう一回叩こうとするが、その前に文吉の足が上がる。

忠助　あれ？
文吉　……
忠助　え、まだ叩いてねえんだけど
文吉　オメエにもやってやる
忠助　え？　いや、いいっていいって
文吉　なんでや、ワにばっかりやってこの
忠助　いいって！　ワの足ちょっと感覚ねえがら
文吉　いいがら、やってやるって～
忠助　いや悪がった悪がった、ワが悪がった
文吉　……なんなんだよ

忠助、文吉が座った瞬間にもう一度、文吉のヒザを思い切り叩く。

文吉　こら、やめろって！
忠助　面白えべ、な？
文吉　いいから薬飲めって
忠助　だって、この薬、意味ねえって～
文吉　そんな事いうなって
忠助　これ、ただの胃薬だろ？
文吉　それでも、これしか薬ねんだもの、飲むしかねべよ
忠助　……医者も来る来るって来ねえしよ
文吉　こんどお上から良い薬送られてくるらしいよ
忠助　え？
文吉　なんが凄え高い薬がこの国に伝わったきたって
忠助　本当かよ
文吉　お上はワだちのこと、ちゃんと考えてくれてるから、それ届くまでこれ飲んで頑張れ

忠助、しぶしぶ薬を飲もうとするが、湯飲みの水をみて

忠助　ゴミういてるんだけど
文吉　いいから飲めって

忠助、苦い薬を水で流し込む

忠助　今年もあと少しだな～
文吉　……そうだな。蝦夷に来て六ヶ月、斜里に着いで四ヶ月さなる

突然、「ホーイ」という甲高い声に二人の動きは止まる。病人が寝ている奥の部屋から聞こえる。二人が顔を見合わせた瞬間、また同じ声が聴こえる。どうやら弁慶の声である。

文吉　……
忠助　……
文吉　弁慶どの、どうしたんだろ？
忠助　文吉どの見てこいよ
文吉　……お、おう

文吉、立ち上がって行こうとするが、弁慶が「ホーイ、ホーイ」と叫ぶ、文吉、振り返り、

文吉　忠助どの、一緒に行こう
忠助　は？　なして？
文吉　いいがら

忠助　おっかねえのが？
文吉　そ、そった事ねえけどよ
忠助　しょうがねえな～

二人、入り口にたって奥の部屋を眺める。

文吉　弁慶どの～弁慶どの～

間。

忠助　いねえな
文吉　うん
忠助　……しかし見事に皆、倒れでしまったな
文吉　んだな～

二人、何人もの人が病で寝込んでいる様子を眺めている。

忠助　……おい
文吉　あ？
忠助　あれ誰よ？

忠助、寝込んで、まったく動かない一人を指さす。

文吉　……アレは大組足軽（おおくみあしがる）、藤田伊三郎（ふじたいざぶろう）だな
忠助　じゃあ、アレは？
文吉　……御長柄（おながえ）、佐藤市右衛門（さとういちえもん）だべ

忠助、奥に入っていく。

忠助　これは？
文吉　掃除小人（そうじこびと）、富田村の久助（とみたむらのきゅうすけ）だな

弁慶が出てきて、ムックリを奏でる。

忠助　あれ？今日、何日だっけ？
文吉　十二月十日。郷夫、高樋村の孫七（たかといむらのまごしち）。大工、金三郎（きんざぶろう）。

文吉、台詞を言いながら舞台前方に座る。以下の台詞は弁慶が奏でるムックリの音色のなか発話。

文吉　十四日。郷夫、沖館の助次郎（おきだてのすけじろう）。十五日、諸手足軽、角田太左衛門（かくたたざえもん）。鳶の団六（とびのだんろく）。町大工、兵七（へいしち）。この太左衛門と兵七の二名は宗谷での療養希望をうけいれられ宗谷に向かったが、途中の紋別で死亡との報せ。十七日、御持槍（おもちやり）、下藤善次郎（しもふじぜんじろう）も同じく宗谷に向かう途中、網走で死亡との報せ。十八日、郷夫、鼻和村の次左衛門（はなわむらのじざえもん）。飯詰村の次郎八（いいづめむらのじろはち）。二十三日、鳶の嵯峨八（さがはち）も宗谷に向かうが途中で死亡との報せ。ただしどこで死亡かは分からず。同じく二十三日、斜里詰合（しゃりつめあい）……公儀御役（こうぎおんやく）、金井泉蔵殿（かないせんぞう）。二十五日、諸手足軽、佐々木孫二郎(ささきまごじろう)。二十六日、長柄の者（ながえのもの）、中田惣十郎（なかたそうじゅうろう）

第三場

文吉、袖からムックリを取り出し、弁慶の演奏に合わせて鳴らす。文吉の演奏を見た弁慶、自分の手を止め、

弁慶　だいぶ上手ぐなったな
文吉　……これ、面白えな～
弁慶　んだが？
文吉　本当に、これもらっていいの？
弁慶　うん、たくさん酒だのタバコもらった
文吉　ドンドン人が亡くなるから、余ってきた
弁慶　……んだの？
文吉　んだ
弁慶　（文吉のムックリを指し）でもそれは、ワ以外のアイヌに見せねえほうがいい
文吉　んだの？
弁慶　んだ
文吉　……なんぼ上手くなっても聴かせる人いなくなったな
弁慶　あの倭人はどこ行った？
文吉　は？
弁慶　いつも、ここで一緒にいる
文吉　ああ、忠助どのか
弁慶　んだ
文吉　ん？　弁慶どのは見てねえの？
弁慶　んだ
文吉　……この前まであったに元気だったのにな～
弁慶　なに、死んだのか？
文吉　いや、そうじゃないんだけど
弁慶　じゃあ何だ？
文吉　見ればわがるよ
弁慶　……ふ～ん

弁慶、ムックリを鳴らしはじめる。

文吉　仲間も、みんなしてな

弁慶、ムックリを鳴らしている。

文吉　ワも、ここで死ぬのかな

弁慶、ムックリを鳴らしている。

文吉　死にたくねえな

弁慶、ムックリを鳴らすのをやめ、

弁慶　死ぬのが怖えのか？
文吉　え？　……（うなづく）
弁慶　なんで？
文吉　なんでって……え？　弁慶どのは怖くないの？
弁慶　怖えよ
文吉　……なんだよ
弁慶　怖えけど……怖くねえ
文吉　どっちだよ？
弁慶　下の国に行ぐだげだ
文吉　下の国？
弁慶　ここより下の国、昼ど夜が逆になった国。あとは同じ
文吉　……へ～
弁慶　それで、次またこっちに生まれる。だから怖くない
文吉　そうなんだ

弁慶　たまにカムイモシリに行く人間もいる
文吉　カムイ、なに？
弁慶　カムイの国
文吉　……せばワも、怖がらなくていいかな
弁慶　倭人は別だ。倭人はみんな、もっと下の国に行く
文吉　は？
弁慶　も～っと下の国。ジメジメ～っとした暗～い国
文吉　な、なんが嫌な予感がするな
弁慶　そこに行ったら、もう二度と生まれ変われねえ！
文吉　うわ～！　……え、なんで？
弁慶　倭人は、この山や川や海を自分のものにする
文吉　は？
弁慶　ここは倭人のものじゃねえ
文吉　……んだな、蝦夷はオメだぢの土地だもんな
弁慶　違う、ワだぢアイヌのものでもねえ
文吉　は？　じゃあ、誰のなの？
弁慶　……
文吉　まさか、カムイのものって言わねえよな
弁慶　ちがう
文吉　じゃあ、なに
弁慶　カムイそのものだ
文吉　は？
弁慶　川も魚も木も熊も、カムイが姿を変えただけだ
文吉　……
弁慶　役目を終えれば、また人間の姿になってカムイモシリに行く
文吉　……
弁慶　ワだぢアイヌは、カムイと一緒に生きてるんだ
文吉　あ、それは倭人も同じだ
弁慶　ん？
文吉　倭人も八百万って言って、そこら中に神様がいる
弁慶　やお？
文吉　ヤオヨロズの神さま。それこそ木にも山にもそこら中に神さまがいるな
弁慶　そうか
文吉　そう考えたらオメだぢと同じだな
弁慶　……そうか？
文吉　そうだろ？
弁慶　……まあ、そうか
文吉　だけどさ
弁慶　ん？
文吉　オメだぢ住んでるのに、オメだぢの土地でねんだべ？
弁慶　んだ
文吉　倭人は、そこ住めば、自分の土地になる
弁慶　……あ、そうなの？
文吉　だから、倭人が住んだから、そごは倭人のものになるんだべ
弁慶　……違う！　手え出すな。アイヌとカムイの世界に手ぇ出すな
文吉　……あ？
弁慶　……あ！？
文吉　あ？
弁慶　あ！？
文吉　☆あ？
弁慶　☆あ！？
忠助　文吉どの文吉どの～

忠助、台所からトックリとお猪口を盆に載せて登場。体も手も足も白く大きくむくれあがり、力士のようになっている。

忠助　ほらほら飲むべし
文吉　た、忠助どの、それだったらワが持ってきたのに

忠助　なんもなんも、これくれえワがやるって
文吉　でも、その体で
忠助　なにが？
文吉　いや、だから
忠助　なに言ってんの？
文吉　……いや
忠助　しかし、まだけっこう酒残ってるな
文吉　ん？　うん……飲む人もいねえがら余ってるよ
忠助　んだな～
弁慶　（忠助に）オメは歩いて大丈夫なのか？
忠助　ん？　なしてよ？　大丈夫に決まってらべな
弁慶　……元気だな
忠助　んだ～なんがメシばっかり食ってたら体も太ってきたな
弁慶　それ太ってる★んじゃねえべ？
忠助　★文吉どの、ほら一杯やるべし
文吉　ん？　おお、んだな
忠助　弁慶どの
弁慶　あ？
忠助　なんがツマミ持ってこいよツマミ
弁慶　あ？
忠助　ツマミ

弁慶、台所に去る。忠助、文吉に酒をついでやる。文吉も忠助に注ぎ、乾杯をする。

忠助　しかしな～十二月に入ってからバダバダどいったな
文吉　んだ、十二月だけで一九人だ
忠助　うわ～
文吉　……金井殿も死んでまったな
忠助　あ？
文吉　公儀御役だど
忠助　病に身分は関係ねえべ
文吉　それでもよ～
忠助　それにしても……あの人だけは元気だな
文吉　最上殿な
忠助　同じもの食ってるんでねえの？
文吉　いまだに、外で体こすってるがらな
忠助　あれやれば、ワも元気になれるがな？
文吉　は？
忠助　今がら、やり方おしえでもらうがな～
文吉　……忠助どの
忠助　あ？
文吉　その体こすったら皮破げるんでねの？

間。忠助、文吉を睨む。

忠助　なに言ってんの！？
文吉　……
忠助　言ってる意味が分んねえな～
文吉　いや、あの人が特別だがら同じ事やっても意味ねえべ？

忠助、文吉の言ってるのを無視して、

忠助　しかしな～今年はさんざんだったな
文吉　ん？　……うん、んだな～
忠助　船で、蝦夷に渡る時からケチついだもんな
文吉　そうだそうだ
忠助　船頭のバカ野郎が「大丈夫だ！」って言うから、そのまま出発して。

そしたら大シケ
文吉　雲行き怪しかったよな
忠助　なんであんなに自信満々だったんだ？　あの船頭は
文吉　知ってる？
忠助　なに？
文吉　船が今にもひっくり返りそうな時に、あの船頭、頭ば坊主に丸めで、皆に土下座してったがらな
忠助　んだの？　こっちはそれどころじゃねえっていうのに
文吉　あれで三人死んだし、船に積んでた荷物、海の底だし
忠助　船がら投げられて、やっとの思いで浜辺についたな
文吉　木にしがみついで、必死に泳いだよ
忠助　浜辺についだら、すげえ星きれいでよ「あれ？　」って思ったよ「今まで死ぬ思いしてったんだけど、あれ？　」ってよ
文吉　なんなんだべ
忠助　なあ
文吉　運が悪がったのがな？
忠助　分がんね。あとさあとさ～
文吉　あ？
忠助　やたらに飛びはねて喜んでるのいたよな
文吉　ああ
忠助　「無事に生ぎでこれだ～！三千世界に、これより面白い事があるもんだべが～！」ってな
文吉　フンドシ一丁になって騒いでったな～（笑）
忠助　皆してポカ～ンとしてたもんな（笑）

二人、笑いあう。

文吉　まあよ
忠助　あ？
文吉　あの嵐を乗り越えだがら、春まで生ぎれるべ
忠助　あ……当りめだべ！
文吉　……
忠助　……

二人、酒を酌み交わす。

文吉　忠助どの、年越しの時間分かる？
忠助　分かんねえよ、朝から真っ暗だし
文吉　吹雪ひどくてな～
忠助　んだな
文吉　年越しぐれえは静かに迎えてえな
忠助　はあ、いいんでね？
文吉　ん？　んだ？
忠助　うん

二人、あらたまって正座をする。忠助、膝を折ろうとするが、むくんでて正座ができないので崩したまま。

忠助　どうも明けましておめでとうございます。
文吉　明げましておめでとうございます、今年も一つよろしくお願いします
忠助　正月ぐれえ、楽しく飲むべし
文吉　んだな
忠助　ツマミ遅えな
文吉　んだな
忠助　（台所に向かって）夷人（いじん、アイヌへの蔑称）！　ツマミまだが～？
文吉　んだ～！

弁慶、小皿に干し魚と箸をお盆に載せて持ってくる。しかし入り口

の所で立ち止まり、奥の部屋を睨んでいる。

文吉　ほら来た来た

忠助　おい、遅えど、早ぐ★持ってこい

弁慶　★ホーイ

文吉　……

忠助　……

弁慶、お盆をその場に置き、奥の部屋を指さし「ホーイ、ホーイ」と叫ぶ。そして中に入っていく。二人は弁慶の様子を呆然と見ていたが、やがて忠助が力なく、

忠助　はあ？　……なんで今

間。

忠助　正月ぐれえ、楽しく飲ませろ

文吉、立ち上がり、お盆を取ってもどりながら、

文吉　……飲むべ飲むべ

忠助　あ？

文吉　いいから飲むべし！

忠助　お……おお、んだな

文吉。自分のお猪口に酒を注ぎ、忠助の前にかざす。

文吉　ワだちは生ぎでら……三千世界に、これより面白い事があるものが～！

文吉、グイっと酒をあおる。奥の部屋で「ホーイ、ホーイ」と弁慶の声が聞こえる。

しかし文吉、弁慶の不吉な声を打ち消すかのように、

文吉　年、越したど～！

忠助　お、おお……んだど！　今年は文化五年だ！

文吉　んだ文化五年、辰年元日。御城附足軽（おしろつきあしがる）、花田源太郎（はなだげんたろう）

文吉、その台詞に合わせ、目の前の皿やお猪口を箸でチャカポコ叩く。不思議そうな顔で見ている忠助に。

文吉　……二日は？

忠助　お、おお

忠助も箸を両手に持ち、

忠助　二日はよ、神山弥三治！（かみやまやさんじ）

文吉、忠助。チャカポコと叩く。

文吉　三日！

忠助　御長柄（おながえ）、三浦勝平（みうらかっぺい）

二人、チャカポコと叩く。これ以降、名前を言い終わったら気の向くままに茶碗を叩く二人。その音色は間抜けな感じがするものの、とても寂しい。

文吉　四日

忠助　御大工（おんだいく）、吉村二郎兵衛（よしむらじろべい）。郷夫、大曲村の紋三郎（おおまがりむらのもんざぶろう）。

文吉　六日

忠助　鳶の巻八（まきはち）

文吉　七日。郷夫、高杉村の寅右衛門（たかすぎむらのとらえもん）

忠助　八日。郷夫、田舎館村の定次郎（いなかだてむらのさだじろう）

文吉　同じぐ郷夫、三千石村の善七（さんんぜんごくむらのぜんしち）

忠助　んだんだ～九日。御持槍、葛西善弥（おもちやり、かさいぜんや）。郷夫、広田村の万太郎（ひろたむらのまんたろう）。同じぐ郷夫、長峯村の次郎八！（ながみねむらのじろはち）

文吉　十日。御持槍、三上熊次郎（みかみくまじろう）

忠助　十二日。御持槍、土岐専司（ときせんじ）

文吉　十三日。大筒方大組与力（おおづつがたおおくみよりき）、黒石三郎兵衛（くろいしさぶろうべえ）

忠助　十六日。郷夫、尾上村の長助（おのえむらのちょうすけ）

文吉　十七日。鳶の乙右衛門（おつえもん）。郷夫、中泉村の五兵衛（なかいずみむらのごへえ）

忠助　十九日。郷夫、木作村の三助（きさくむらのさんすけ）

文吉　三助どのはワど歳同じ～

忠助　二十日。郷夫、石野村の久三郎（いしのむらのくさぶろう）

文吉　久三郎はまだ歳一六～

忠助　二十三日。掃除小人（そうじこびと）、館岡村の喜六（たておかむらのきろく）。郷夫、藤枝村の酉之助（ふじえだむらのとりのすけ）。悪戸村（あくどむら）の佐兵衛（さへえ）。町大工、忠助（まちだいく、ただすけ）

文吉　一日に四人死んだ～

忠助　二十八日。大組警固（おおくみけいご）野呂周作（のろしゅうさく）。大組足軽（おおくみあしがる）、三上幸助（みかみこうすけ）。二九日。大筒役（おおづつやく）、鳴海弥八（なるみやはち）

文吉　一月だけで二十六人だ～

忠助　二月塑日。郷夫、十三町の喜助（じゅうさんちょうのきすけ）

文吉　喜助どのもワラシ生まれだばりだ～

忠助　四日。作事請払い役（さくじうけばらいやく）、工藤文作（くどうぶんさく）。郷夫、野木村佐五右衛門（のぎむらさごえもん）

文吉　してもワだちは～

忠助　七日。諸手足軽、石沢六之丈（いしざわろくのじょう）

文吉　生ぎでらど～！

忠助　うおお～！

文吉　おお～！

文吉、忠助。メチャクチャに皿や徳利を箸で叩きまくる。

忠助　十五日

文吉　町大工、清蔵（きよぞう）

忠助　十六日

文吉　郷夫、宮館村の藤七（みやだてむらのふじしち）。藤崎村の又助（ふじさきむらのまたすけ）

忠助、徐々に呼吸が苦しくなってきたのか箸を置き、布団へ移動しながら、

忠助　十八日

文吉　郷夫、神山村の佐五右衛門（かみやまむらのさごえもん）、

忠助　十九日

文吉　郷夫、豊岡村の善右衛門（とよおかむらのよしえもん）

忠助　二十一日

文吉　諸手足軽、藤田茂八（ふじたしげはち）、ワのけやぐ～（仲間）

忠助、布団に横になる。どんどん呼吸が荒くなる。

忠助　二十四日
文吉　……郷夫、和徳村の清太郎（わっとくむらのきよたろう）
忠助　二十五日
文吉　……
忠助　二十五日
文吉　お、御持筒足軽（おもちづつあしがる）、高橋兵司（たかはしへいじ）
忠助　二十六日
文吉　……
忠助　二十六日
文吉　……
忠助　二十六日！

文吉、箸を床に叩きつける。

文吉　……郷夫、舞戸村の長太（まいとむらのちょうた）。二十八日。同じぐ郷夫、廻関村の甚八（かいせきむらのじんぱち）。三月二日。郷夫、高杉村の弥兵衛（たかすぎむらのやへえ）、網走に行くが死亡。四日。郷夫、藤崎村の幸吉（こうきち）。大筒役、佐々木直八（ささきなおはち）。幸吉、直八、この二名は松前に向かうが……常呂にて死亡

文吉。いたたまれなくなったのか部屋から出て行く。忠助、呼吸が弱まり、声も小さくなっていくが、それでも声を振り絞るかのように、

忠助　六日。諸手足軽、小田桐源次（おだぎりげんじ）。掃除小人、織太郎（おりたろう）。鳶の又八（またはち）。郷夫、真土村の安右衛門（まづちむらのやすえもん）。お、同じぐ六日。郷夫、中野村の巳之助（なかのむらのみのすけ）。宗谷に向かうが……紋別にて死亡

間。部屋に忠助の呼吸だけが響く。

忠助　ワ、ワのけやぐ……み～んなして……死んでまった

忠助の呼吸が次第に途切れ途切れになり、やがて静かになる。

間。

文吉　忠助どの～忠助どの～

文吉と弁慶。熱いお湯が入った土瓶。珈琲豆の入ったすり鉢、すりこぎ。小さい麻のきんちゃく袋と湯のみを持ってくる。弁慶、持ってきたものを置いたら、すぐ物陰に隠れ、恐る恐る様子をうかがっている。

文吉　忠助どの！　薬届いだ

忠助、文吉の声にムクリと起き上がり、

忠助　は？
文吉　薬届いだって～
忠助　なんだ？
文吉　お上はまだ、ワだぢを見捨てでねがったど
忠助　……それ、いつもの胃薬でねえの？
文吉　違う違う～万病さ効ぐってよ
忠助　んだのが！？

文吉、珈琲豆をすり鉢ですり始める

文吉　んだ！　死にそうだった山羊が、この豆食ったら元気になったらしいど
忠助　なにぃ！？
文吉　忠助どの、蝦夷の冬乗り越えだがら、これ飲んで来年の冬まで頑張らねえばな
忠助　そんなにがんばるの？
文吉　んだ！
忠助　え～
文吉　これ……「かぁふぃ」て名前だど
忠助　あ？
文吉　かぁふぃぃ
忠助　……かぁふぃぃ？
文吉　んだ！　南蛮渡来でな、大変貴重で高級なものだがら、その辺では売ってねんだって
忠助　何だが、いい匂いするな～
文吉　お上がな、蝦夷ば警備してるワだぢにだげ、わざわざ送ってくれだんだど
忠助　おお！
文吉　津軽の殿様でも飲めねえ代物で！　幕府の偉い人だぢの次に、ワだぢが飲むんだぞ！
忠助　おお！　おお！
文吉　昔、アラブの偉いお坊さんがな
忠助　うん
文吉　恋を忘れだ、あわれな男にコレ飲ませだらよ
忠助　うんうん
文吉　たちまち男は若い娘に恋をしたってよ！
忠助　ええ！？　すげえな～！
文吉　なあすげえべよ～！
忠助　んでこれ、お茶だの？
文吉　お茶でねって……「かぁふぃ」だって

弁慶が物陰からボソッと、
弁慶　かぁふぃ
忠助　……
文吉　……

弁慶、ブルブル震えている。

忠助　文吉どのは飲んだの？
文吉　ん？　……おお
忠助　え？
文吉　……おお
忠助　は？　飲んだの飲んでねの？
文吉　……飲んだっていえば飲んだし、飲んでねっていえば飲んでねえし
忠助　は？　なに
文吉　飲んだっていえば飲んだし、飲んでねっていえば飲んでねえし……飲んだかな？
忠助　はあ？
文吉　忠助どのが病人なんだがら飲めって
忠助　淹れ方知ってるのに、何で飲んでねえの？
文吉　だって、飲んだ人の顔見たら皆……
忠助　皆が何？

文吉、恐ろしい顔でブルブル震えながら忠助をみる。

忠助　……え？

弁慶も後ろで恐ろしい顔でぶるぶる震えている。忠助、弁慶の様子

も目に入り、

忠助　え、ええ！？　何？なんだの一体！？

文吉、何事も無かったかのように。

文吉　さ、もういいかな

忠助　な、なんだの？

文吉、豆をすり潰し終えたら、それを麻袋に入れ、鉄瓶の中のお湯にひたす。徐々に黒くなっていく。その模様を見守る忠助、

忠助　うわわっ！　なんか黒ぐね？

文吉　うん、黒い飲み物だって

忠助　……これは効きそうだな

文吉と忠助、鉄瓶をのぞき込み、お湯がどんどん黒くなっていく様子を不思議そうに見ている。

忠助　これ飲んだら、ワも最上殿みてえになれるかな？

文吉　なれるべ

忠助　じゃあ、これ飲んで元気になって一緒に乾布摩擦やるぞ～

文吉　なに言ってんの？

忠助　ん？

文吉　最上殿はもういねえよ

忠助　え……いねえの？

文吉　最上殿は六月入ってすぐ、もっと北のほう探検しに行ったんだよ

忠助　んだの？

文吉　んだ。海ば越えで、カラフトっていう所に向かったって

忠助　海ば越えだ？

文吉　んだ、すげえよな～

忠助　……

文吉　だがらホラ！　忠助どのもこれ飲んで元気になれ！

忠助　お、おお。んだな！

文吉　そろそろいいがな？

文吉、鉄瓶から湯のみに注ぐ。

忠助　うわ～黒い！　何ぼ黒いんだ

文吉　ほら、飲んでいいよ

忠助　う

文吉　……ほら

忠助　（ずずっと飲む）

文吉と弁慶、恐ろしい顔でブルブル震えながら忠助を見ている。

忠助　……うめえ

文吉　え？

忠助　これ、ウメえよ！

文吉　んだの？

忠助　これは効くかも

文吉　アレ？　おがしいな

忠助　文吉どのも弁慶どのも飲んでみへって

文吉　★え？いやいい、いい

弁慶　★（頭をぶるぶる振る）

忠助　大丈夫だって、ウメえよ

文吉　ええ、ホントに苦ぐねえの？

忠助　なん～も苦ぐねえよ、ウメえよ

忠助、湯のみを渡す。文吉、おそるおそる飲む。

文吉　……

忠助　な、ウメえべ？

文吉　苦げえ！　うわ！なんぼ苦えんだこれ！

弁慶、苦しんでいる文吉を見て恐ろしさのあまり、ブツブツ言いながら天に祈る。

忠助　え、そったに苦え？

文吉　忠助どの！　平気だの！？

忠助　んだ、なんだがほんのりと甘みどコグもあって、それでいで★しつこぐなぐ

文吉　★うわ！　苦え、み、水！

文吉、台所へ走り去る。

忠助　なしてよ～こったにウメえものよ

忠助、弁慶に

忠助　弁慶どのも飲んでみる？

弁慶　い、いらねえ

忠助　あ、そ（忠助、調子に乗ってどんどん飲む）ウメえ、これウメえよ

弁慶　そったにウメえのが？

忠助　だがら飲んでみろって

弁慶　うう

忠助　味見するだげだって

弁慶、ちょっと飲んでみる。あまりにも苦くてビックリして「ワッカ！　ワッカ！（水！　水！）」と言いながら走り去る。それに合わせて溶暗。

忠助　あっはっは、なしてよ～こったにウメえものよ

第四場

その日の真夜中。暗闇の中、忠助の呻き声がする。忠助、布団から起き上がり。

忠助　寝れねえ！　……ぜんっぜん寝れねえ！　……さっきの「かぁふぃぃ」のせいかな？　……あれスッポンより効ぐな～……文吉どの～文吉どの～

間。

忠助　文吉どの～いねえのが？　……弁慶どの～弁慶どの～

その時、奥の部屋に通じる入り口の、明らかに人の身長より高い部分から人の顔がぬっと現れる。忠助、それに気づき、よく見ると、

忠助　……おお弁慶どの？　なんでそんな所から顔だしてるの？

弁慶、うつろな瞳で忠助をジッと見ているが、やがて顔を引っ込める。弁慶とすれ違いに反対側の入り口のかなり高い位置から文吉の顔が現れる。まるで鬼のような形相をしている。

忠助　弁慶どのって～（文吉を見つけ）おお、文吉どの～オメも寝られねんだべ、なあ？
文吉　……
忠助　文吉どの？
文吉　……桜……見てえなあ
忠助　あ？　桜？　……んだな～桜みてえな。おい、帰ったら一緒に見るべ？
文吉　……
忠助　ワの畑によ～桜の木、一本だげ生えでるんだ
文吉　……
忠助　細くて、小さくて全然立派じゃねえけど、花だけはいっぱい咲くんだ。その桜の下でよ～お岩木山見ながら酒っこチュチュッて飲んだらもう最高だ。お城から見るよりすげえがらな

文吉、見えなくなる。

忠助　ウソじゃねえがら～まわり田んぼしかねえがらよ～文吉どの～文吉どの～……ほら見えるべ？　お岩木山。どうだ？　こごがら見だほうが立派だべ～？　……んだべ～だがらワァ言ったべな～お城がら見るより立派だべ～　……あれ？　なんがお岩木山ぁ真っ赤だな……おい、空も真っ赤だな～なんだべアレ？　ワあったら山ぁ、今まで生ぎてきて初めで見だんだけど～真っ赤だ！　空も山も真っ赤だ！　おっかねえ！　おっかねえよ～！

文吉、先ほどとは違い、いつもの様子で入ってくる。

文吉　忠助どのどうしたの？
忠助　なしてよ～ワは文吉どのと花見してるだげだべな？　なんでこんな事になるのよ～普通のお岩木山ぁ見せでくれよ、こんなに真っ赤な山でねえんだって～

文吉、寝ている忠助の体を揺すりながら、

文吉　忠助どの大丈夫だが？
忠助　真っ赤だ！　お岩木山～真っ赤だ～！
文吉　真っ赤でねえよ、なんも真っ赤でね

文吉、うわ言を言っている忠助の体をしきりに揺らしながら、

文吉　忠助どの！　津軽に帰ったら、ワの家に来てくれ！　ワの家から見れば、お岩木山とお城と一緒に見えて大したキレイだ！　忠助どの、ぜってえ気にいるはんで！　ワの子どもの顔も見でくれ！　だがら……だがら帰るべし！　一緒に帰るべし！

忠助、揺すっている文吉を不思議そうに見る。

文吉　忠助どの
忠助　……
文吉　な？
忠助　うわ！　何だのこれ？
文吉　何が？
忠助　……草？
文吉　は？
忠助　草だな？　これ、草の塊だな？
文吉　……忠助どの？
忠助　この草の塊どっから出できた！？
文吉　何しゃべってら？
忠助　あっちに行げ！
文吉　しっかりしろって！

忠助　あっちに行げ！
文吉　忠助どの！
忠助　うわー！　草の塊がしゃべってら！

弁慶、入ってくる。

弁慶　どうした？
文吉　忠助どのがおがしいんだよ！

忠助、弁慶を見るなり、

忠助　わあ！　……何だこれ？　……肉だ……今度は肉の塊が出できた！
文吉　はあ？

忠助、並んで自分を見ている文吉と弁慶を見て、

忠助　おお……おおお
文吉　忠助どの？
忠助　おおお！　肉の塊ど草の塊が壁破って走りまわってら！

忠助、布団の上で暴れ出す。文吉、暴れる忠助をおさえつける。

文吉　弁慶どの、弁慶どの！　忠助どのどしたんだべ？
忠助　おおおお触るな！　触るなー！
文吉　ちょっとちょっと忠助どのって
忠助　おおおお
文吉　落ち着け！　落ち着けって！
弁慶　大丈夫だべ
文吉　は？
弁慶　ただ、ちょ～っと興奮しただげだべ？
文吉　弁慶どの？
弁慶　あっちに行っていいよ
文吉　は？
弁慶　ワが寝がしておぐがら

弁慶、忠助の頭に手を置き、肩をトン、トン、と赤子をあやすように叩く。

文吉　弁慶どの、危ねえよ
弁慶　ヘマンタ、エチシカラ、ヘマンタ、エチシカラ、エヌ ルスィクス、アイェ、ワエヌ、エネ、オカ、ヒ（何を泣いてるの？　何を泣いてるの？　この話しが聞きたくて泣いてるんなら、聞かせてあげる）

弁慶、アイヌの子守唄「六十のゆりかご」を歌う。
この歌を歌ってる途中で忠助、次第におとなしくなっていき、そのうち寝息をたてる。

文吉　……寝た？　……寝たの？

弁慶、歌いながらうなづく。文吉、忠助から離れ、

文吉　もう、こんなのはイヤだ

弁慶、歌っている。

文吉　いつまでこんなのが続ぐの？　……イヤだ……イヤだよ～

文吉、立ち上がり。寝息をたてている忠助をにらみながら

文吉　死ぬほうも大変だよな

弁慶、歌っている。

文吉　でも、見送るほうも大変なんだよ！

文吉、部屋から出ていく。

弁慶しばらく歌っている。

弁慶、歌いながら忠助の首に手をかけ、力を入れ始める。

忠助、苦しくなり暴れる。しかし弁慶は忠助の首を絞め続ける。
弁慶の歌声が少しずつ大きくなっていく。忠助、必死に抵抗するが、体の動きは痙攣に変わっていき、そして動かなくなる。

弁慶、歌うのをやめ、忠助の耳元で囁くように、

弁慶　いい気味だ……ワの祖父ちゃんも、祖父ちゃんの父ちゃんも、オメえらシャモに殺されだ……シャモのせいで、アイヌの生活はメチャクチャになったって、ワの母ちゃんが言ってだ。シャモは皆してティネポクナシリ（アイヌ語で地獄のようなもの）に行げばいい……シャモは皆して、このアイヌモシリ（アイヌの世界、蝦夷）がらいなぐなれ

弁慶、ゆっくりと立ち上がり。

弁慶　ホーイ……ホーイ！

文吉が入って来る。

文吉　弁慶どの？

弁慶　（忠助を指し）ホーイ

文吉　……そうか

弁慶、この場から立ち去ろうとする。

文吉　弁慶どの

弁慶、立ち止まる。

文吉　……ありがとう

弁慶、ゆっくり振り返る。

文吉　忠助どのば看取ってくれで

弁慶　……ホーイ、ホーイ

弁慶、去る。

文吉　……冬が終わって、海の氷もやっと、とけてきて

文吉、客席前方に向かい、正座する。

※ここからは津軽藩に帰還し報告している文吉と、斜里での文吉が交錯する。

文吉　これで船も通うようになるだろうって喜んだけど……船が来る事は

なかったんです。でも、なんとか生魚とか食えるようになって、少しずつ元気になる者も出てきたんです。だけど五月十八日に御城付足軽、成田栄次郎が死亡。閏（うるう）六月十三日。足軽目付、桜庭又吉が死亡。んでから

忠助、突然、激しく咳き込み、息を吹き返す。激しく息を吸ったり吐いたりしているが、

忠助　か、帰る……ワは帰る

忠助、ヨロヨロと立ち上がり。

忠助　おっ母、いま帰るから……待ってろよ、おっ母……おっ母

忠助、その場から去っていく。

文吉　郷夫、藤崎村の忠助が脱走。歩ける者で探したけど、見つかりませんでした……同月二十四日、やっと……やっと船が来て、交代せよとの命がありました。以上、斜里警備にあたった津軽藩兵一〇二名、その内、七十二名が斜里の地で命を落とし、津軽に戻る船に乗れだのは十七名どなりました。……た、たったの十七名です……は？　……他言無用？　え、それは一体どういう事ですか？　……いやしかし！　こんなに人、死んだのに他言無用って……どうして？　……は？　……お、お役御免？　そ、それだけは！　それだけはご勘弁を……いや……は？

弁慶がムックリを持って登場。その場に座り、自分の口を指差し、

弁慶　口にフタすればいい

文吉、弁慶の方を振り向き。

文吉　……は？

弁慶　変な所から、風が出ねえように

文吉、懐から自分のムックリを取り出し、

文吉　う～ん、言ってる事は分がるんだけどな～どうしても出てしまうな～

弁慶　我慢しろ

文吉　は？

弁慶　倭人は我慢するのが好きだべ？

文吉　……う～ん

弁慶　けやぐが死んでも我慢してるもんな

文吉　そ、そんな事ねえよ

弁慶　何が、そんな事ねえ？

文吉　……

弁慶、ムックリを奏ではじめる。うなだれる文吉、ムックリの音のなか、つぶやく。

文吉　そんな事ねえ……

弁慶、奏でるのをやめ、

弁慶　倭人は嫌いだ

文吉　ん？

弁慶　だけど、凄えど思う

文吉　え、なんで？

弁慶　ワだぢは、冬は、ここに住まねえ
文吉　……は？
弁慶　冬は、ウルハコタンに行ぐ
文吉　……ウルハコタン？
弁慶　んだ。そごは温けえ湯も湧いで、大したいいぞ
文吉　……んだの？
弁慶　ここは寒すぎるがら、ワだぢには無理だ
文吉　……んだの
弁慶　レッケカムイは海の向こうの、もっと寒い所に行ったみてえだな
文吉　ん？　……ああ最上殿な。んだ、あの人は凄えな
弁慶　倭人は、どごまで行ぐの？
文吉　……は？
弁慶　ワだぢは、このアイヌモシリにいればいい。しても倭人は、どごまで行ぐの？
文吉　……

間。

弁慶　どごまで行ぐ？

弁慶、答えに窮する文吉を厳しい目で見つめる。その後、再びムックリを奏で始める。文吉、深くうなだれている。その後、自分もムックリを口元まで運びながら。

文吉　……わからねえ

文吉もムックリを奏で始める。

ゆっくりと、ゆっくりと暗くなっていく。

暗闇の中、その二つの音色は共鳴するのかしないのか、ただただ響き合う。